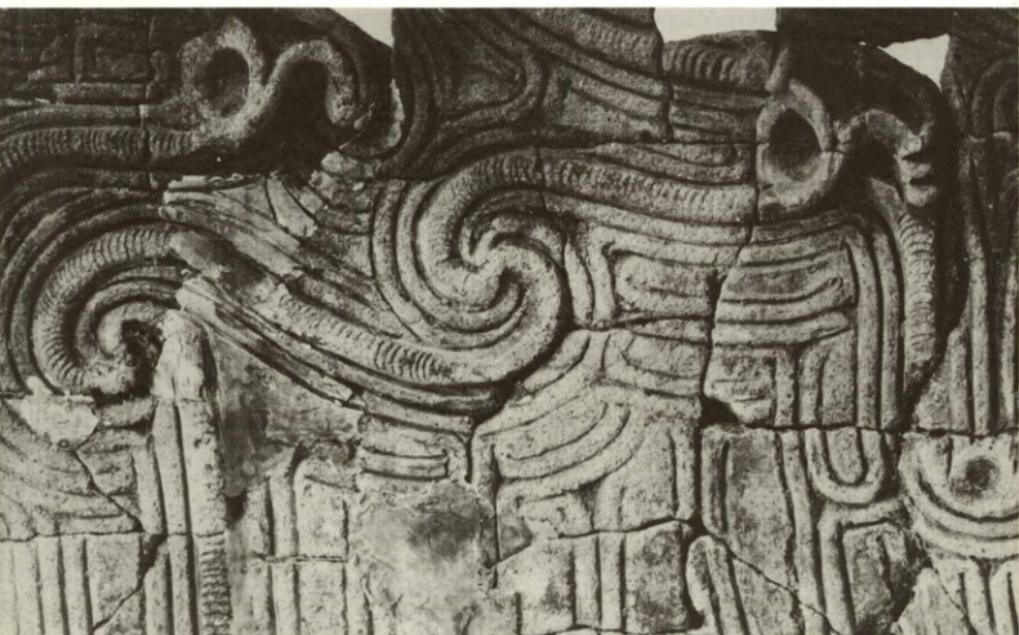


富山県上市町

# 永代遺跡

緊急発掘調査概要



1985年3月

上市町教育委員会

# 序

上市町では町の東北部、野島地内において行なわれた県営ため池等整備事業に先立ち上市町永代遺跡の発掘調査を実施しました。遺跡は附近の畑作地から、土器や石器が採集できるところからよく知られていましたが、発掘調査を行なったのは今回が初めてでした。その結果、堅穴式住居が4箇所検出されそれに伴って数多くの縄文土器、石器などの遺物が発見されました。発見された遺物は、いずれも縄文時代中期のものでしたが、新潟県の馬高式とよばれる土器に類似する土器も発見され興味をひきました。

調査は本年で終しましたが、出土した資料が今後、多いに活用され、本書が上市町の縄文時代、ひいては北陸の縄文文化を明らかにする一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり多大な御協力をいただきました県農地林務部、上市川沿岸土地改良区、県教育委員会、並びに地元住民のみなさまに衷心より感謝申し上げます。

昭和60年3月 上市町教育委員会

## 目 次

序	
例言	
I 遺跡の環境	..... 1
II 調査に至るまで	..... 1
第1図 地形と周辺の遺跡	..... 1
III 調査の概要	..... 2
第2図 地形及び発掘区	..... 3
第3図 道構配置図及び埋め堀造構図	..... 4
第4図 炉跡遺構図	..... 5
参考文献	..... 6
図版1 1号住居跡出土遺物	
図版2 2号・3号・4号住居跡出土遺物	
図版3 出土遺物	
図版4 出土遺物	
図版5 調査区全景・1号住居跡	
図版6 2号・3号・4号住居跡	
図版7 炉跡・埋め堀・作業風景	
図版8 出土遺物	
図版9 出土遺物	
図版10 出土遺物	

## 例 言

1. 本書は、県営ため池等整備事業（上市地区）に伴う富山県中新川郡上市町永代遺跡の緊急発掘調査概要である。調査は、昭和59年9月11日から同年12月20日までである。調査面積は150m<sup>2</sup>である。
2. 調査は上市町教育委員会が、富山県農地林務部の委託を受け実施したが、地元負担金については、上市町教育委員会が負担した。
3. 調査事務局は上市町教育委員会におき、調査期間中文化庁記念物課、富山県教育委員会（文化課・県埋蔵文化財センター）の指導を受けた。事務は、社会教育課主事高慶孝が担当し、社会教育課長荒川武夫が総括した。
4. 調査は上市町教育委員会社会教育課主事高慶孝が担当した。
5. 遺物の整理、本書の編集・執筆は、県埋蔵文化財センターの協力を得て調査担当者が行ったが、遺物のトレース、写真撮影については、県埋蔵文化財センター文化財保護主事神保孝造・狩野瞳兩氏の協力を得た。
6. 調査参加者は次のとおりである。  
(作業員) 齋藤清志、広田義政、古川保忠、本松義雄、有馬明古、田中栄子、禹城登志子、高城富美子、三輪光子、古川アヤ子、高城英子、左近ナミ子、古井利子、町田フミ、若木啓子、高川アキ、松原ミツエ、三鈴愛子、柄本律子

# I 遺跡の環境

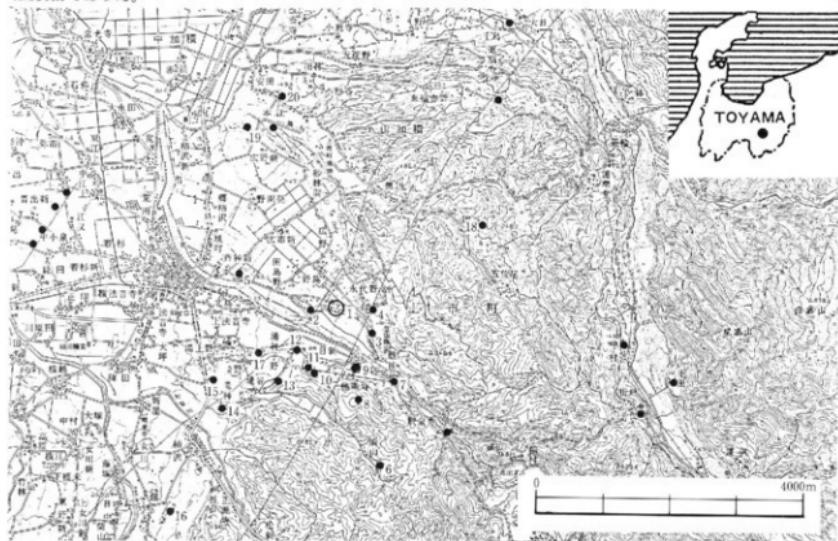
立山連峰に源を発する上市川は、西の常願寺川、東の早月川との間を流れ、富山湾に注いでいる。上市町は、富山市の方約10kmに位置し、上市川が形成した扇状地を中心に占地している。上市町永代遺跡は、この上市川の右岸に形成された河岸段丘上の端部、標高105mの上市町野島下大門地内に所在する。附近一帯は宅地とたばこ畑で、「黒ほこ」と呼ばれる黒褐色土が堆積している。なお段丘疊層までの深さは約1.5mである。

周辺には、上市川右岸段丘上に野島大門遺跡、野島遺跡、左岸に、丸山A・B・C・Dの各遺跡、極楽寺遺跡などが集中しており、縄文時代の中心的な一群となっている。この他、北側約4kmの地点には県指定史跡の本江遺跡（滑川市）がある。附近一帯の縄文遺跡は上市川によって形成された段丘の端部にそって立地しており、縄文時代を通じて人々の営みがくり広げられていたことを物語っている。

# II 調査に至るまで

上市町永代遺跡は、野島下大門地内に所在する縄文時代の遺跡である。同地内は、昭和59年度に県営ため池等整備事業による用水工事が計画され、その一部が本遺跡に計画されたため、遺跡の保存のための協議が、上市町教育委員会、富山県教育委員会（文化課・県埋蔵文化財センター）、県農地林務部、地元土地改良区の4者により行なわれた。その結果、一部記録保存を含む現状保存の対策が講じられることになった。

調査は、昭和59年9月11日から同年9月27日までの本調査と、昭和59年12月1日から同年12月12日までの遺物探査及び立ち会い調査の2期に分けて行なった。その結果、住居跡4棟に伴ない数多くの遺物を検出した。なお調査面積は150m<sup>2</sup>であった。



第1図 地形と周辺の遺跡  
1.永代遺跡 2.野島遺跡 3.野島大門遺跡 4.片道遺跡 5.吉神新古墳群 6.須山遺跡 7.上極楽寺遺跡  
8.極楽寺山上ノ山 9.高瀬寺遺跡 10.丸山C遺跡 11.丸山B遺跡 12.丸山A遺跡 13.丸山D遺跡  
14.湯神子A遺跡 15.湯神子B遺跡 16.御座割遺跡 17.鷹崎野遺跡 18.阿谷遺跡 19.本江広野新遺跡  
20.田林遺跡

### III 調査の概要

#### 地形と層序（第1・2図）

遺跡は、上市川右岸の標高約105mに位置する。地形的には台地（永代野台地）に付随する河岸段丘上の端部と見ることができる。この段丘は、東西にはしる町道ぞいに細長く伸びている。段丘下との比高差は約20mで遺跡の現況は畠地、宅地である。

今回調査を行なったのは、遺跡のほぼ中央で、用水工事で切土工事となる部分である。出土遺物はすべて縄文時代のものである。

層序は第1層黒褐色土（黒ボコ）、第2層黒色土、第3層褐色土で以下黄灰色粘質土の地山となる。遺物は1層から3層まで含まれるが、3層に含まれる量が多い。

#### 遺構（第3・4図、図版5・6・7）

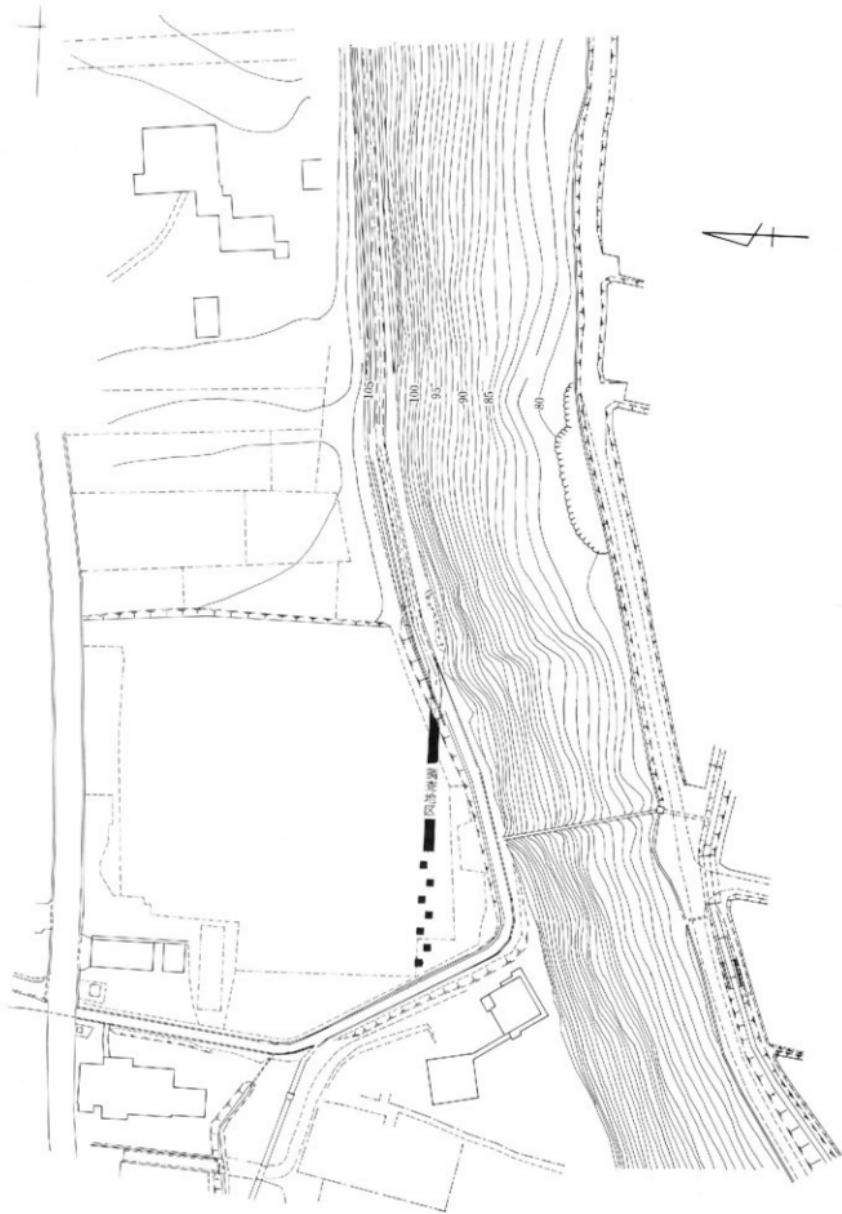
検出した遺構は、縄文時代の住居跡4棟、それに伴う土塙3ヶ所の他に埋葬施設と考えられる壙壙2ヶ所である。遺構は、全て縄文時代中期中葉に位置づけられるが、一部遺構の重複及び形態の違いが認められるため時期的細分も考えられる。しかし、用水工事に合せて調査区を設定したため、4棟ともその全容を明らかにできなかった。以下、住居ごとに遺構を概観しておく。

1号住居跡（第3・4図、図版5・7） 発掘区の東端に位置する。全体の半分近くを検出したにとどまるが、東西14.5m南北約9m（推定）の長円形のプランが想定できる。床面は、地山から10cm前後掘り込まれており、その上に3~4cmの厚さで黄灰色土が表層されている。住居跡の中央部に東西約4m、南北約1~2mの不整形の土塙SK3がある。炉は住居東側に小型の石組炉が設置されている。（第4図、図版7-1）。形状は円形で、底面に偏平な躰を1個敷いている。遺物は多く（図版1、図版3-1~4・6・8・16・17、図版4-1~7）その出土状況は、SK3を中心にして、炉1周辺に集中している。遺物はSK3の覆土なしし床面上から出土した。

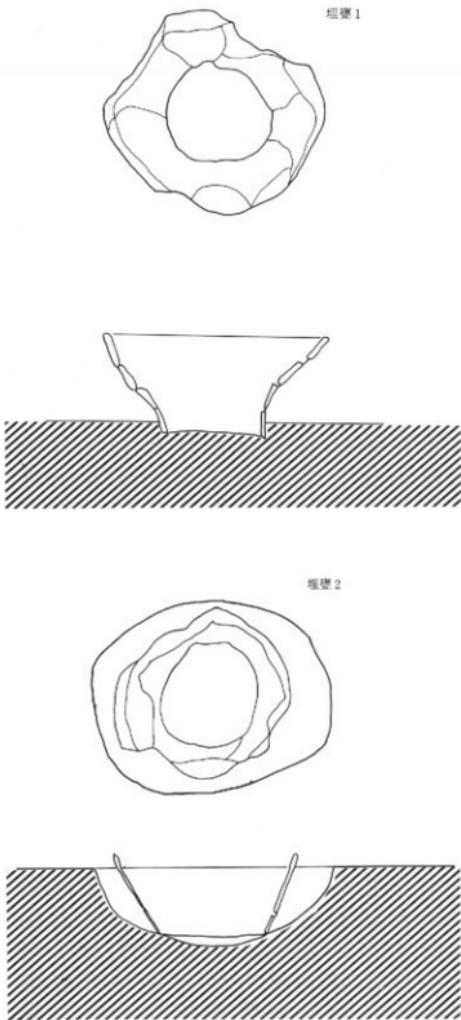
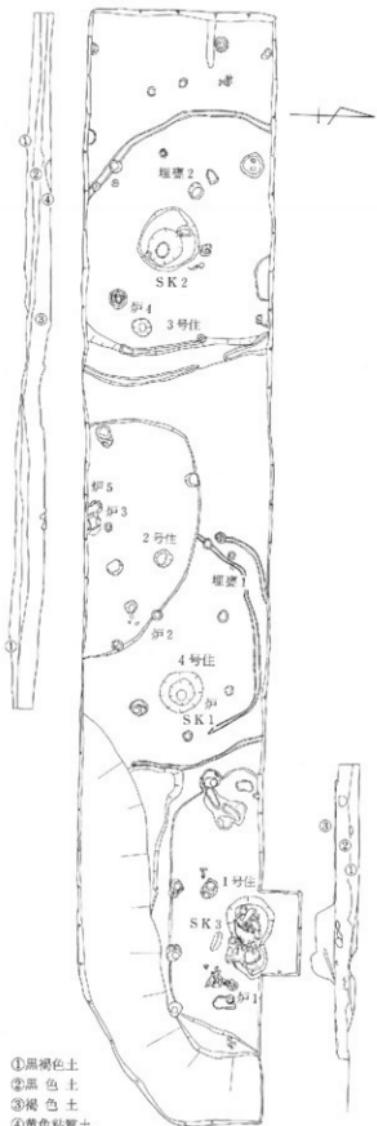
2号住居跡（第3・4図、図版6・7） 発掘区の中央に位置する。4号住居と切り合い関係があり、4号住居→2号住居の順で構築されたものと考えられる。規模は東西11.9m、南北約12m（推定）の円形プランが想定できる。床面は地山から10cm前後掘り込まれている。柱穴は5ヵ所あるが、主柱は判然としない。いづれも床面から30cm前後掘り込まれている。炉は住居中央に隣接して2ヶ所ある（第4図、図版7-4）。炉3は方形の石組み炉で東側に躰はなく焼土がみられる。炉5は小型の石組み炉で方形を呈する。床面に偏平な躰を1個敷いており、南側が開口部となっている。2つの炉は切り合っていないが、若干、炉5が古いものと考えられる。

3号住居跡（第3・4図、図版6・7） 発掘区の西側に位置する。規模は東西11.5m、南北約13m（推定）の円形に近いプランが想定される。床面は東側で20cm前後掘り込まれているが、西側は溝がめぐらされるのみで掘り込みは確認できなかった。住居跡のほぼ中央に直径約3mの土塙SK2がある。深さは約70cmで遺物を若干含む。炉は住居跡南東隅に小型の石組炉4がある（第4図、図版7-2）。4個の躰からなる方形のものである。住居跡西側に埋壙2がある（第3図）。深鉢底部で口縁、底部がなくRLの縄文が施されている。柱穴は8ヵ所あるが主柱は判然としない。いづれも床面から約30cm掘り込まれている。3号住居はもう1棟住居が切り合っている可能性もあるが判然としない。

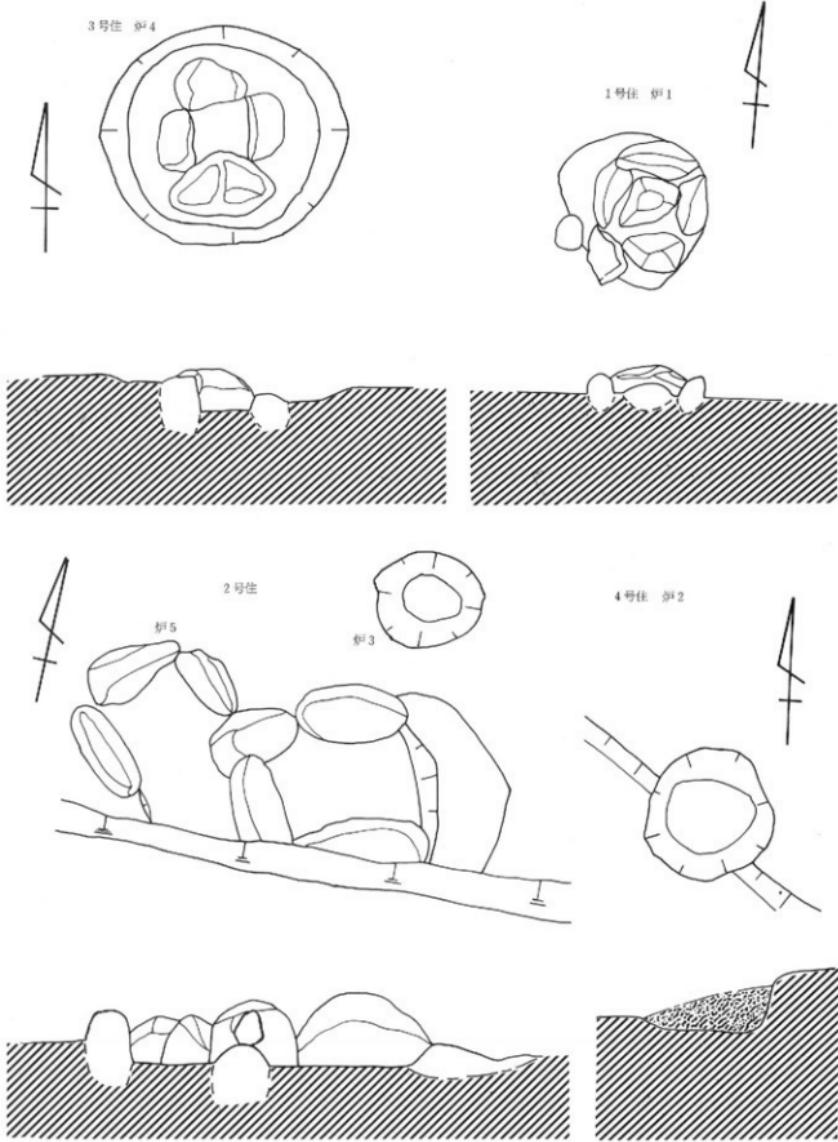
4号住居跡（第3・4図、図版6・7） 1号住居跡と2号住居跡の間にあり、2号住居跡と切り合い関係を持つ。幅20cm、深さ10cmの溝がめぐらされている。規模は径約10m（推定）の円形プランを想定できる。炉2は2号住居跡との間にある。径50cmの地焼炉である。土塙SK1は、住居跡の東側にある。径2mで深さ約80cmのものである。住居北西隅に埋壙1がある。深鉢で口縁から胸部が使われており、底部はない。4号住居跡はもう1棟の住居跡と切り合っている可能性があるが判然としない。



第2図 地形及び発掘区(S 1/2000)



第3図 遺構配置図(1/50) 及び埋め甃遺構図(1/6)



第4図 炉跡遺構図(310)

### 遺物（図版1・2・3・4・8・9・10）

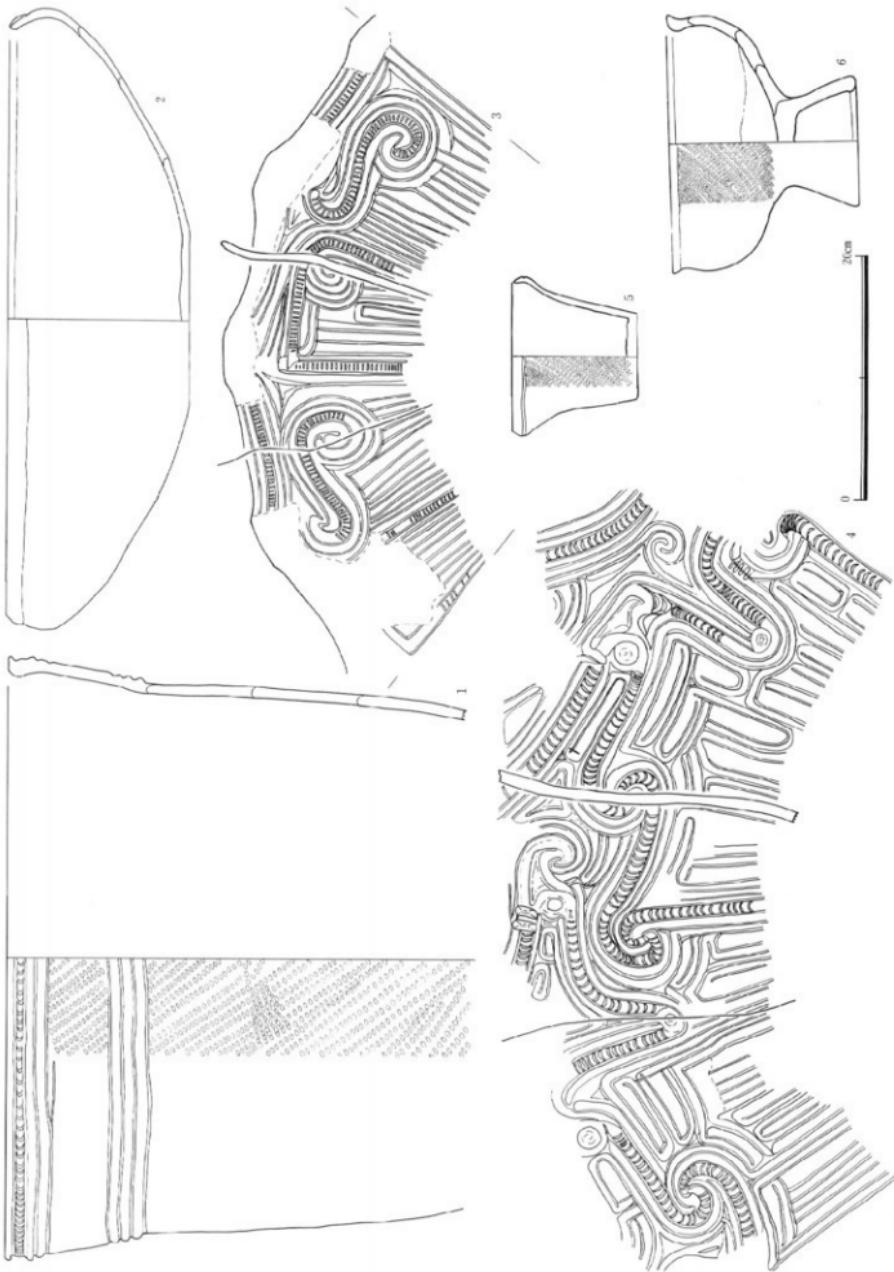
出土遺物は縄文土器と石器類で、整理箱に約30箱の量がある。整理作業は途中であるため、ここではいくつかの例を取り上げ概要を述べることにする。

**土器（図版1・2・3・8・9・10）** 上器は縄文時代中期中葉に属するものがほとんどであるが、一部前葉まで遡るものもみられる。図版1はいずれも1号住居跡から出土しており、天神山式（小島1975）に比定されると考えられる。1は全体にR Lの縄文を施し、口縁と頸部に半截竹管文を横走させる深鉢である。口縁には連続瓜形文がある。2は浅鉢で、口縁部が内湾する。口唇部は粘土の張りつけにより肥厚する。3は、波状口縁の深鉢で口縁・胴部の隆帯にはヘラ状工具による連続刻目を施す。文様は2単位で構成されている。4はスムーズな流れを持つ隆帯と半截竹管文で構成されており、玉だき、三叉文が付文されている。隆帯には連続瓜形文が施されており、文様の全体は2単位で構成されている。5は小形の深鉢で全体にL Rの縄文が施されている。口縁部には撻を押した文様が施されている。6は台付の鉢でR Lの縄文が施されている。図版2は2・3・4号住居跡から出土している。1は4号住居から出土した埋甕である。口縁部文様帯は半截竹管文を横走させその間に蓮華文風の文様を配している。付文順はまず格子目状の沈線を引き、その後半截竹管文を縦に下し割り付けし、最後に蓮華の花弁の曲線を半截竹管で施したものと思われる。口唇部は連続瓜形文のある隆帯がめぐらしく動物意匠の突起が付くものと考えられる。文様は4単位で構成されており中期前葉の嚴照寺二期（神保1977）以降の土器と考えられる。2は2号住居跡から出土している。頭部以下が欠損しているが深鉢と考えられる。口縁内面がくの字状にくびれ、器面には隆線による文様が施されている。馬高式土器の系付を持つ土器と考えられる。3・4・5・6は3号住居跡から出土している。3は波状の口縁をもつ深鉢で器面にR Lの縄文が施されている。頭部には撻を押した文様がある。4は頭部以下が欠損している。隆帯と刺突文で施文され、梢円区画が4ヶ所あるものと考えられる。5は口縁に1条の隆帯をめぐらせ、ここから隆帯を斜め右に下す。隆帯は胴中央やや下で渦を巻く。これが2個についてこの中間口辺にしの字形と円形の隆帯が配されている。半截竹管文はこれらの隆帯に付随するが、この凹に綾状文が施されている。6は波状の口縁をもつ深鉢でR Lの縄文が施されている。口唇部は肥厚しており、撻を押した2条の縄目がつく。図版3-1～5は口縁部が丸く立ち上がる浅鉢で口縁に2～3条の半截竹管文が施されている。6・8は口縁部がくの字状に立ち上がる浅鉢で口縁文様帯は半截竹管文で施文されている。9～17は口縁部に連続瓜形文をもつ隆帯が横走する深鉢、18～20は口縁部にしの字形の隆帯を持つ、37は波状の口縁の深鉢で口辺部に隆帯で三角状の区画を作り、この基線に沿って押引きによる連続刺突文を施すもので新道式などと関連があるものと思われる。38～46は縄文が施されるが口縁は無文である。

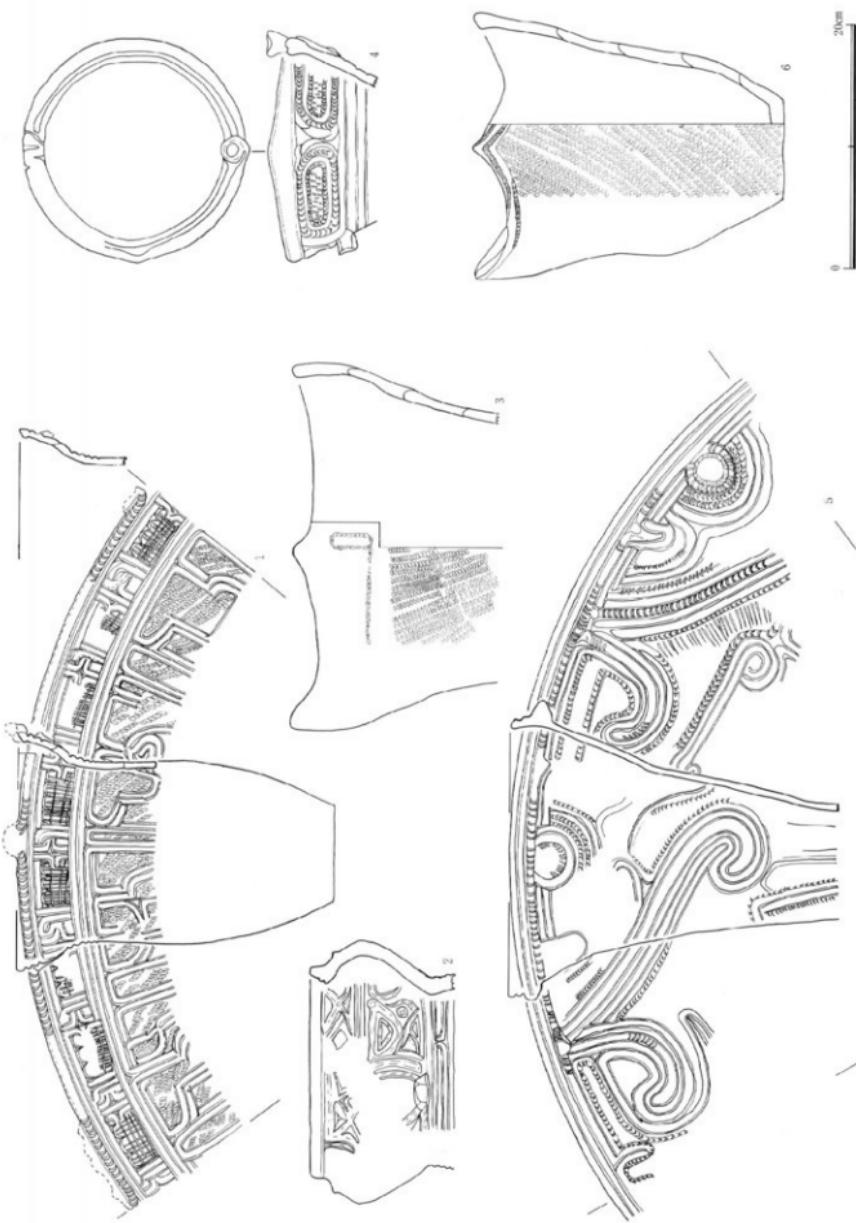
**石器（図版4・10）** 図版4-1～7は1号住居跡から出土した。1～4・7はいずれも磨製石斧である。石質は蛇紋岩で長さ9～11cm、幅5～6cm、厚さ1.5～2.5cmである。刃は両面から丸くとぎ出して縱断形が船形である。擦り切り手法の痕跡を残すものもある。5は砂岩質の石皿、6は両端を打ち欠いた鉈である。8は2号住居から出土した打製石斧である。撥形で石質は安山岩である。9～12は3号住居から出土した円石である。9・10は長形で窪みが2ヶ所ある。石質は砂岩質である。11は花崗岩の、12は凝灰岩の円石である。

### 参考文献

- コ 小島俊彰1974「北陸の縄文時代中期の編年一戦後の研究史と現状」 大垣第5号
- 小島俊彰1979第5章「上田山貝塚 石川県河北郡宇ノ氣町上田山遺跡調査報告」宇ノ氣町教育委員会・石川考古学研究会
- サ 清井重洋・橋本正春1977「富山県奈月町瀬山寺遺跡緊急発掘調査概要」富山県教育委員会
- シ 神保孝造・阿上進一・松本幸治1977「富山県砺波市嚴照寺遺跡緊急発掘調査概要」富山県教育委員会
- ハ 橋本正・柳井聰・池野正男・神保孝造1975「富山県庄川町松原遺跡緊急発掘調査概報」庄川町教育委員会
- ミ 渡農・広田寿三郎・大谷清庸1959「天神山遺跡調査報告書」富山県・魚津市教育委員会



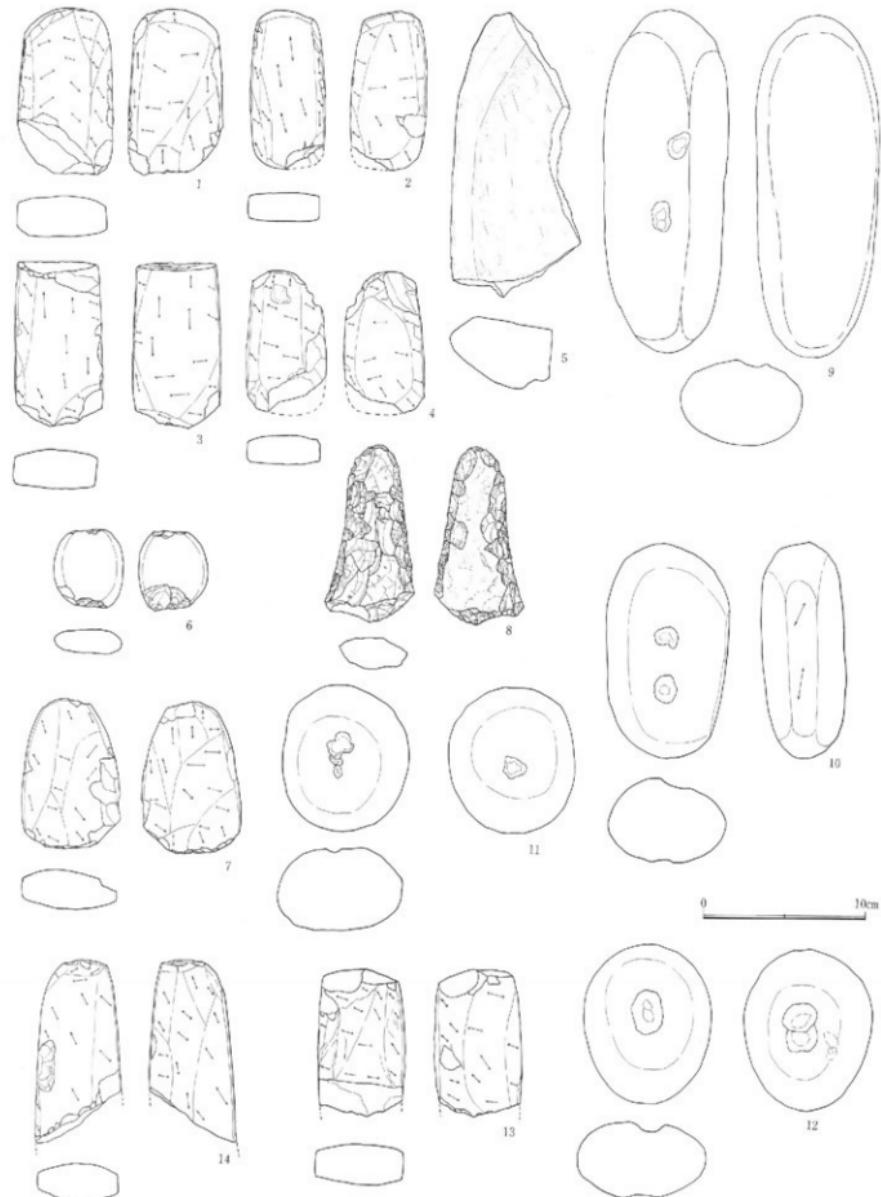
图版 1 1号住居跡出土遺物(1/4) SK3(1·3·5)



图版 2 2号·3号·4号住居跡出土遺物(1/4) 2号住居跡(2) 3号住居跡(5·6) 3号住居跡SK2(3·4) 4号住居跡(1)



図版3 出土遺跡(3) 1号住居跡(1~4・6・8・16・17) 3号住居跡(5・10・20・33~44) 4号住居跡(46)

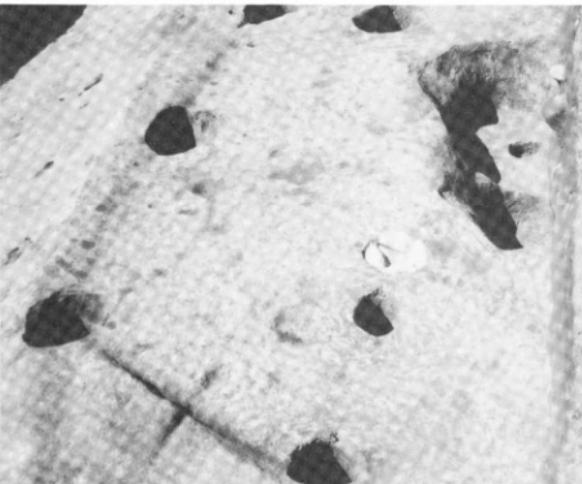


図版4 出土遺物(3/6) 1号住居跡(1~7) 2号住居跡(8) 3号住居跡(9~12)

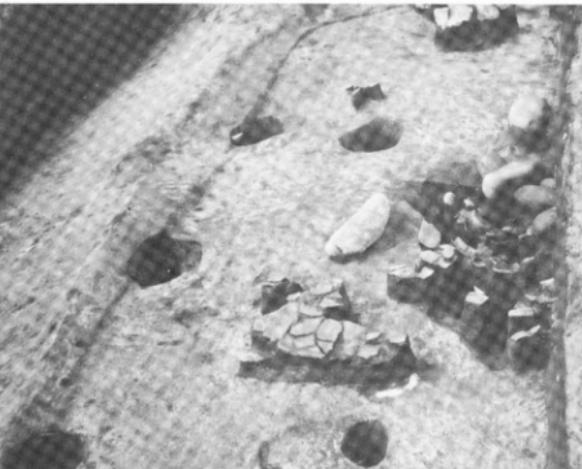
図版 5



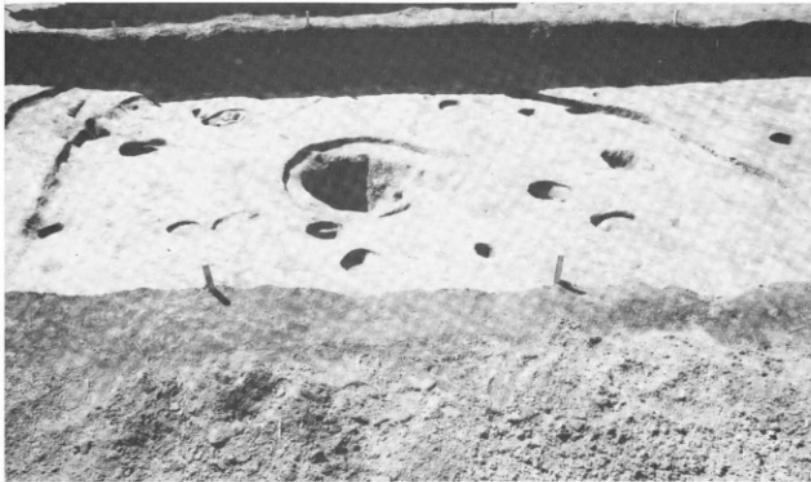
調査区全景



I号住居跡



I号住居跡  
検出状況



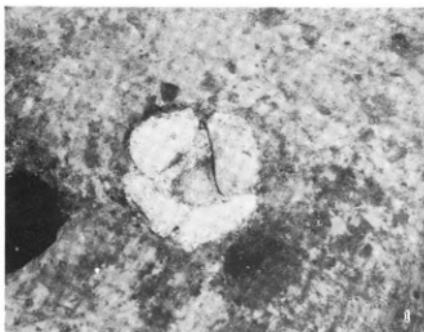
3号住居跡



2号住居跡



4号住居跡



1 1号住居跡  
炉 1  
2 3号住居跡  
炉 4



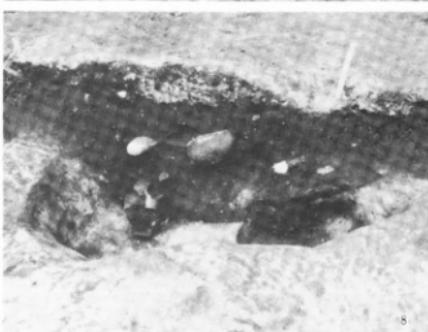
3 3号住居跡  
ウメ甌 2  
4 2号住居跡  
炉 3・炉 5



5 作業風景  
6 ウメ甌 1



7 作業風景  
8 1号住居跡  
SK 3断面





图版 8

1 4号住居跡出土  
埋甕

2 3号住居跡  
出土



图版 9



1



2



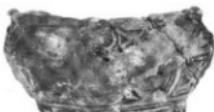
図版10  
出土遺物

1号住居跡  
(3~5, 19~24)

3号住居跡  
(1~2, 25~27)



1



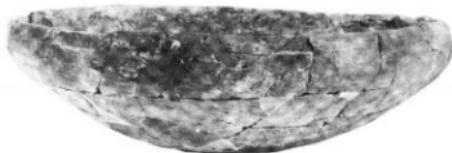
2



3



4



5



6



8



10



12



13



7



9



11



14



15



16



18



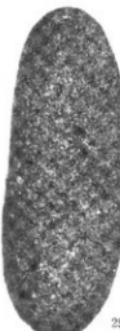
19



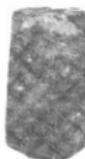
21



23



25



20



22



24



26



27

富山県上市町

永代遺跡

緊急発掘調査概要

発行日 昭和60年3月30日

発行者 上市町教育委員会

編集者 上市町教育委員会

印刷者 (株) チューエンツ

